



イメージキャラクター「ベエズ」

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

平成20年度 伊東市・下田市・西伊豆町・松崎町・南伊豆町 市町長懇談会を開催

平成21年2月18日に、下田港の「ベイステージ下田」において、田弘巳伊東市長、石井直樹下田市長、藤井安彦西伊豆町長、深澤進松崎町長、小針弘南伊豆副町長と中部地方整備局並びに静岡県建設部港湾局が、港を通じた地域振興並びに防災をキーワードに意見交換を行うための市町長懇談会を開催しました。

冒頭に、主催者である田邊俊郎中部地方整備局港湾空港部長及び角浩美静岡県建設部港湾局長から挨拶がありました。

懇談会では、地域振興の面で、深澤松崎町長からは、「魚釣りができる公園やマリンスポーツなどの観光港として利用したい。」との意見があり、藤井西伊豆町長からは、「マリーナ事業やスキューバダイビング事業により、交流人口の増加を図りたい。」との意見があり、また、石井下田市長からは「海遊公園やカジキ釣り大会は評判が良い。漁協の合併もあり、水産基地としての港の利用にも期待している。」との意見がありました。

防災面では、各市町長からは、「災害時に道路が寸断した場合は港は主な脱出口となり、救援物資の受入口となる重要な施設である。」との共通の意見があり、小針南伊豆副町長からは、手石港での海上自衛隊の上陸艇を使った訓練の紹介があり、石井下田市長からは、海上保安部との連携訓練の紹介がありました。

また、田伊東市長からは、「地域振興も防災も、地元にあった迅速な対応が必要不可欠であり、地元への管理委託も含めて、国や県と一緒に港湾整備を進めていきたい。」との意見がありました。

今回の懇談会では、各市町長の率直なご意見を直接伺えたことが何よりも有意義であったと考えております。この懇談会で得た貴重な意見を今後の港湾整備・政策に反映させていきたいと考えております。



ファインダーの向こう

清水港を訪れた地球深部探査船「ちきゅう」です。「ちきゅう」は海洋石油掘削に使われているライザー掘削システムを科学研究用に初めて導入することにより水深2,500メートルの海底面から深度7,000メートルの深さまでボーリングすることが可能な探査船です。この船により、巨大地震の震源を直接観測することや、マンツルの採取を行ったりすることが可能になります。船は2005年に竣工し、全長は210メートル、全幅38メートル、総トン数は57,087トンの観測やぐらの高さは121メートルもあります。GPS等の測定結果を用い6基の推進器により自動的に掘削中の船の位置を保持できるシステムを備えています。興味をお持ちの方は是非「ちきゅう」を運用しているJAMSTECのウェブサイトをご覧ください。(http://www.jamstec.go.jp/chikyuu/jp/CHIKYU/index.html)

今回は神戸で推進器の修理を行い、駿河湾で試験を行うために清水にやってきました。

遠くから一目見るだけで「ちきゅう」とわかる特徴のある船です。この船の活躍により、東海地震・東南海地震の発生メカニズムが解明されたり、地震の情報を素早く伝える観測機器が設置され、防災対策に役立つことを願っています。



地球深部探査船「ちきゅう」

みなとへの想い

伊豆市長 菊地 豊



土肥港は、清水港を結ぶフェリーや沼津港、戸田港を結ぶ高速船が就航する伊豆市の海の玄関口としての役割を果たしております。また、夏には海水浴場で十万人ものお客様に楽しんでいただいております、港自体が癒しの空間となっております。

今年の六月には待望の富士山静岡空港が開港となりますが、静岡空港と伊豆をつなぐアクセスとして駿河湾フェリーへの期待は大きなものがあります。海外や国内各地のお客様に、駿河湾越しの雄大な富士山を眺めていただきながら伊豆にお越しのいたり、県内の方々には、伊豆を駿河湾越しで週末くつろいでいただけるようなセカンドハウスの癒しの場所にしていただきたいと思います。



土肥港～清水港間を就航する高速船「駿河湾フェリー」



海水浴客で賑わう土肥サンセットビーチ



松原公園の一角にある「世界一の花時計」

当市は、平成十七年度より「港まちづくり構想」を検討してまいりましたが、その中で、港湾南部のフェリー埠頭の再整備とともに、そこから世界一の花時計のある松原公園までのゆとりある空間づくりが提案されています。南アルプスを望む西向きに開けた土肥港は、美しい夕日とともに、ゆっくりと自然を楽しんでいただける空間です。この資源をより磨き上げ、例えば海の玄関口から親水プロムナードを経て、街中の文化や温泉まで散策していただきたいと思います。私たちは土肥のみなとを安全かつ新しい魅力を創出する賑わいの拠点として一体的に整備していきたいと考えております。



土肥の美しい夕日



土肥港全景 H18. 3. 4 撮影

-70℃の倉庫にマグロがいっぱい！

清水港は「マグロの水揚げ日本一」の港です。そして、港の周辺にはマグロの冷凍倉庫がたくさん建ち並んでいます。

1月29日に、その中のひとつ、八洲水産株式会社さんの冷凍倉庫を、富士市立吉永第一小学校4年生のみなさんと一緒に見学させていただきました。

現地に到着すると、早速、マイナス70℃の冷凍倉庫を見学しました。

冷凍倉庫の中は、息もできないくらいの寒さで、汗をかいた“くっ”や、眼鏡、カメラが凍り、みんな真っ白な息を吐きながら「さむいっ！早く出たい！」と、あまりにもその寒さに、倉庫内の大量のマグロにも気付かないくらい、驚いた様子でした。

その後、暖かい（と感じる）屋外で、カチカチに凍った冷凍マグロを観察しながら、八洲水産株式会社の高道さんをはじめ、従業員の方々から説明を聞いたり、質問をしたりしました。中でも、300kgもあるクロマグロが人気で、「値段はいくらですか？」「とけるまでにどれくらい時間がかかりますか？」や、「どうしてエラやお腹が切り落とされているの？」など、普段見かけないマグロの姿に興味津々の様子でした。

今回の見学は、小学生にとっても、清水に住む私たちにとっても、大変貴重な体験となりました。

八洲水産株式会社の皆様、見学にご協力いただき、本当にありがとうございました。



いよいよ
マイナス70℃の
世界へ！
倉庫の中には
マグロがぎっしり！

みんなの息で
まっ白です。
床も凍っていて
ツルツルと滑ります。



クロマグロ、
メバチマグロ
のほかに、
角(ツノ)を落とした
カジキもいました。

←カジキたちです。

御前崎港が「楽器の輸出 日本一」になりました♪

御前崎港が、「楽器の輸出 日本一」になったことが、名古屋税関の調べでわかりました。

これまでは清水港が日本一でしたが、浜松市にある楽器メーカーが、御前崎港を積出港として利用するようになったため、2008年は、御前崎港が1位、清水港が2位の結果となりました。

御前崎港は、2004年(平成16年)1月に水深14mの多目的国際ターミナルが完成し、静岡県西部地区の輸出入拠点として、主に完成自動車やコンテナなどが取り扱われています。

今年の6月4日には、富士山静岡空港の開港が予定されており、また、第二東名～現東名～富士山静岡空港～御前崎港を結ぶ「金谷御前崎連絡道路」の完成により、より使いやすい魅力的な港になることと期待されています。



H21. 2. 2 撮影

【御前崎港西ふ頭】
ガントリークレーンを2基備えたコンテナターミナルや、完成自動車が保管できるモータープールが整備されています。

現場から 清水港初！「リクレーマ船」が入港！

清水港に初めて「リクレーマ船」(オーシャン2号)が入港しました。リクレーマ船とは、海底を掘った土を船から陸にあげる作業をおこなう船で、約60mのベルトコンベアが設備されており、1時間に2,000m³もの土を陸上にあげることができます。現在、清水港では、新興津地区コンテナターミナル第2バースの整備に伴い、岸壁に新しくケーソンを据付けるために、硬い地盤の層まで海底を掘る工事を実施しており、3月中旬まで海底を掘る船とともにリクレーマ船が清水港内で作業を実施していきます。



現場から 御前崎沖にGPS波浪計を設置しました

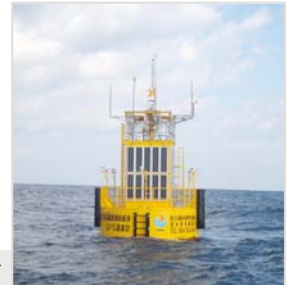
1月27日(火)に御前崎港において一般公開されたGPS波浪計は、さる2月7日(土)に所定の位置(北緯34° 24' 12"、東経138° 16' 30")へ無事設置することが出来ました。

作業当日は、午前4時00分に御前崎港を出港、午前6時50分に現場予定海域に到着し、測量等を行った後、午前7時05分から設置作業を開始、午前9時08分にアンカー投錨完了、その後ブイ上で最終作業を行い、午前10時に作業完了しました。

設置作業を行った作業船は今回で7基目とのもので、ブイ(約55t)に繋がっているチェーン(約85t、約330m)及びアンカー(約23t)が、まるで流れ作業のごとく順次着水し、水深120m下へ安全かつ確実に設置されていく姿は、非常にムダが無く見事なものでした。

設置されたGPS波浪計については、今後、基礎データの観測を続け、1年後を目処にデータの一般公開を目指したいと考えております。

御前崎沖に設置されたGPS波浪計



～下田港事務所よりご紹介～ 下田港発着定期貨客船「あぜりあ丸」

あぜりあ丸は、下田港を朝出発し、利島、新島、式根島、神津島を一日で廻り、夕方に下田港へ帰ってくる貨客船です。定休日の水曜日と悪天候の日を除き毎日往復しています。

伊豆七島への観光客はもちろんのこと、離島へ食料品や建築資材などを届けるなど、離島に住む人々の生活を支えています。

昔の離島には、現在ほど岸壁が整備されておらず、「はしけ」(小船)を利用して、船から陸へ人や物を積みおろしていたので、大変危険な作業だったのですが、最近は、どこの港にも岸壁が整備され、安全に作業が出来るようになりました。

離島にとって、港は「くらしの玄関口」なんですね。



下田港と伊豆七島を結ぶ「あぜりあ丸」



- 総トン数:480t ●全長:78m
- 速力:15ノット
- 旅客定員:約360名
- ※貨物は1tのコンテナで最大7個積載

お問い合わせ先:神新汽船(株) 下田営業所
TEL 0558-22-2626

★お知らせ★ 外国クルーズ客船「クリスタルセレニティ」が清水港にやってくる！

■入港日時:平成21年4月15日(水) 9:00

■入港場所:清水港日の出ふ頭

■出港日時:平成21年4月15日(水) 17:00

※予定は変更される可能性がありますので、ご注意ください。

■お問い合わせ先:清水港客船誘致委員会 事務局静岡市清水港振興課
TEL 054-354-2432 HP <http://www.shimizu-port.jp>

《清水港には、平成16年2月以来、2回目の入港となります。》



海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル
おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間:9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く)
☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課
太田・屋敷
電話 054-352-4148
e-mail
shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp